

産総研技術セミナー in 福岡2026

～新素材・リサイクル・評価技術で広がるものづくり～

日時：令和 8 年 1 0 月 9 日（金） 13：30～17：00

場所：福岡県工業技術センター 化学繊維研究所 3階 研修室
（福岡県筑紫野市上古賀3-2-1）

定員：会場 30名、オンライン（WEBEX） 30名

プラスチック、ゴム、セラミックスといったものづくり産業において、リサイクルや省資源に関する取り組みが求められています。

本セミナーでは、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）および福岡県工業技術センター（福岡工技セ）が合同で、リサイクルや省資源に関する研究開発事例を紹介します。基調講演では植物由来の次世代資源と期待されるナノセルロースの有効利用について、また技術紹介ではゴム、プラスチック、セラミックスに関する最新の技術や取り組みについてご紹介します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム（13：30～17：00）



基調講演（13：35～14：25）

ナノセルロースの「作る・知る・使う」を核とする 価値創出のアプローチ

産総研 セルロース材料研究グループ 研究グループ長 榊原圭太

産総研、福岡工技セからの技術紹介（14:25～16:15）

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ○加硫ゴムのマテリアルリサイクル高度化のための材料診断技術 | 産総研 長谷朝博 |
| ○再生樹脂の使いこなしに向けた材料診断技術 | 産総研 伊藤祥太郎 |
| ○木粉配合プラスチックの実用化に向けた評価 | 福岡工技セ 田中大策 |
| ○未利用資源を活用した新規陶土の開発 | 福岡工技セ 阪本尚孝 |

設備見学会（希望者のみ）（16:25～17:00）

申込方法：URL、または二次元コードからアクセスの上お申し込みください

<https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/Q6yqegVs>

申込締切：令和 8 年 1 0 月 2 日（金）

お問合せ：福岡県工業技術センター 百武、木村

電話：092-925-7402

E-mail：info-ctri@fitc.pref.fukuoka.jp



講演概要

基調講演

ナノセルロースの「作る・知る・使う」を核とする 価値創出のアプローチ

産総研 機能化学研究部門 セルロース材料研究グループ
研究グループ長 榊原圭太

植物由来のナノセルロースの応用展開には、目的に応じた構造設計が重要です。本講演では「作る・知る・使う」を軸に、評価技術とデータ駆動手法により、実用化を加速する取り組みを紹介します。

技術紹介

1. 加硫ゴムのマテリアルリサイクル高度化のための材料診断技術

産総研 機能化学研究部門 材料インテグリティ研究グループ
主任研究員 長谷朝博

機能化学研究部門では、材料診断技術を基盤としたリサイクル材評価技術の開発を進めています。本講演では、加硫ゴムのマテリアルリサイクル高度化に向け、企業と連携して取り組んできた脱硫度評価技術の開発事例を紹介します。

2. 再生樹脂の使いこなしに向けた材料診断技術

産総研 機能化学研究部門 材料インテグリティ研究グループ
主任研究員 伊藤祥太郎

樹脂組成や添加剤の実態把握、劣化状態の評価、用途適性の推定に活用できる材料診断技術を紹介します。再生ポリプロピレンを対象に、品質管理や用途展開に向けた評価事例と活用の可能性について解説します。

3. 木粉配合プラスチックの実用化に向けた評価

福岡工技セ 化学繊維研究所 化学課 高分子材料チーム
研究員 田中大策

化学繊維研究所では、「高分子材料開発支援ラボ」を活用し、環境配慮型プラスチックの開発を支援しています。本講演では、廃棄木材由来の木粉とプラスチック複合材料のリサイクル性について、ラボを活用し評価した事例を紹介します。

4. 未利用資源を活用した新規陶土の開発

福岡工技セ 化学繊維研究所 化学課 セラミック材料チーム
研究員 阪本尚孝

福岡県の伝統産業である小石原焼・高取焼産地における原料枯渇問題と、硅砂鉱山で必ず発生する規格外の副生成物処理問題に対応できる、サステナブルな新しい陶土「山田土（やまだつち）」の開発から事業化に至るストーリーを御紹介します。

主催：産業技術総合研究所中国センター、福岡県工業技術センター化学繊維研究所
共催：福岡県工業技術センタークラブ ナノテク・材料技術部会